
黒騎士の行く道 Dark Knight Go Road

鬼畜な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒騎士の行く道 Dark Knight Go Road

【Nコード】

N4967BA

【作者名】

鬼畜な人

【あらすじ】

とある一般家庭、そこにその男は居た。これは某ウェブ小説サイトや某動画サイトを巡回していた、どこにでもいる高校生の話である。

サイトを巡回している時とあるスレッドを見つけ書き込む

すると・・・これは一般家庭で育った元高校生が、困惑しながらも、生き抜いて行く物語 3人称視点の練習中です ひどいのはすいません・・・

第一話 いつのまにか異世界に・・・あれ？（前書き）

何故かモンスター成り上がり物が書きたかった
それだけなんだ・・・

見たく無い方はブラウザバックしてくださいね

第一話 いつのまにか異世界に・・・あれ？

俺の名前は柴崎神治、ごく最近までごく普通の高校生だった

ん？どういう意味だっけ？

俺もよくわかってないんだから聞かないでくれ・・・

回想

どこにでもある普通の家、その2階に彼は居た

「ああー、ついにこの小説も完結かあ・・・さびしくなるな・・・」

そこにいる人物は、丸椅子に座って居た、容姿は長身で凛とした顔、女顔に近いのだろうか。そこに柴崎神治は居た
見ているサイトは某ウェブ小説サイトである

「おー、面白そうな小説がランキングが上がって来てるなー、さあて掲示板でも見てくるかー」

カチカチとマウスを動かす

「ん？何だこのスレ・・・何々・・・安価で異世界に飛ばします・・・釣りかなー」

そう言いながらも、マウスを動かしそのスレッドをクリックする

「安価取ったら携帯で写メとって貼るよwww・・・っと・・・安価取れちゃったな・・・」

- スレッド -

1 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012/01/01 01:00:00 all14wdds2ew4

安価で異世界に飛ばします<<320

307 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012/01/01 03:47:52 kukddsww32a

k s k

308 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012/01/01 03:48:12 ae4bu31aal21

ガチで飛んだらk w s k説明頼む <<320

釣りだったら釣りでいいけどなw w w
k s k

309 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 03:48:43 g3aw49jx32m n

異世界に飛んでエルフの乳を・・・

k s k

310 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 03:48:52 k v 1 b l s 3 3 l x m n

<<309 お前・・・消されるぞ

311 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 03:49:31 b u u 2 k a 0 9 m s 1 2

<<309 エルフの乳w w w wでかいんだろうなw w w

・
・
・

316 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012

/01/01 04:01:12 av32k1s932x

お前ら年越えしても元気だなwww

<<309 グへへwww

317 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 04:02:01 bu2ka09ms12

ぢわ・・・ぢわ・・・

318 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 04:02:10 mk57ssxbu33

<<320マダー？

319 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 04:02:23 ae4bu31aal21

<<320 異世界に入ったらとりあえず写メ貼れ！

美人さんとかの・・・ねwww

320 名無しの旅人 「安価で異世界に飛ばします」 2012
/01/01 04:02:41 li72mm2wk41w

安価取ったら携帯で写メとって貼ってやるよwww

- スレッド -

「・・・あれー・・・とれちゃ・・・った・・・な」

男の意識はそこで途絶え、この世界から消え去った

薄暗い洞窟のようなところ・・・そこで彼は目覚めた

まあ、人間の姿はしていなかったが・・・

「んっ・・・眠っちゃったな・・・」

男は自分の手に違和感を感じ首を曲げる

ガチャッ

「・・・あれー？今首から鉄の音がしたんだけど気のせいかな？」

また首を曲げる・・・

ガチャッ

「おつかしいなー首から鉄の音なんてしないはずなんだけどなー」と言いながら

首を曲げて体を見る、その姿は・・・

「なんじゃこりゃあああああああ！！！！」

鉄の鎧を着た？自分の姿だった・・・

話は冒頭に戻る・・・

30分後

「よし、落ち着いた」

その鎧は20分ほど意味不明な行動を取っていた

じたばたしたり、走ったり、周りから見たら変人のような行動だった

「状況を把握しよう、まずここは洞窟のようにじめじめした場所だな」

と言いながら地面に座り胡坐をかく

「今更だが、自分が息をしてるようには思えんなあ・・・、まずこの鎧脱げないし・・・」

ちなみに今の容姿は、漆黒のようにどす黒い色の鎧、そしてそこからでる黒に近い赤の霧

言っちゃうと何だが中身がなかのひて(い)ない

本人が気づくのはちよつと先になるだろう

「・・・こんな状況で頭にステータス出る！なんて思い浮かべたら
どうなるんだろ、二次小説とかで
そういうのあるしなー」

その鎧は、そう言いながら頭に（ステータス出る！）と思い浮かべ
てる

「どつせ出ないだろ」

と知っている、頭に・・・

名前：空欄

種族：黒霧騎士
ブラックファントムナイト

LV：1

スキル：空欄

年齢：0歳

現在地：名も亡き洞窟

場所補正：城・古城・街

逆場所補正：山・森

食物によるステータス補正：極低

(あつれえ！？出ちゃったよー！？)

鎧は・・・改め黒騎士は焦りながら鎧を脱ごうとする

(脱げないっ！・・・兜の部分だけ開けて水溜りで顔を見てみるか・・・)

黒騎士は水溜りに向かってガツチャンガツチャンと音鳴らしながら歩いていく

ピチャン・・・ピチャン・・・

(やっぱり怖いなあー洞窟って・・・)

そう思いながら水溜りを覗く、すると自分の顔は無く黒い何かが霧のように浮かんで？いた

(・・・えーっと・・・ちょっと待て・・・さっきのステータスに黒霧騎士ってあったな・・・)

ブリックファンタムナイト

”黒霧騎士”(これだよな・・・?)

「・・・・・・・・モンスターかよおおおおお！」

黒騎士の声は虚しく洞窟に響いた・・・

第一話 いつのまにか異世界に・・・あれ？（後書き）

出来たら感想お願いします

作者「これだけです」

神治「これだけ？」

作者「これだけです」

神治「これだk（無限ループ）

第二話 ころからやじこよじ(前書き)

書きたくて書いた

後悔はしていない！(キリッ)

第二話 これからどうしよう

(・・・モンスター・・・？つまりどういうことだ？)

洞窟で胡坐をかき、顎に手を当て悩んでる黒騎士の姿は異様としか言い様がなかった

(えーつと・・・、これはゲームということか？いやいやおかしいだろそれは、とりあえず移動
してみるか・・・)

と、ガチャガチャと鎧の音を響かせながら立つ

(そっいや、腰の辺りに剣みたいなのがあったな)

腰についている110cm辺りの剣を取りだす

(結構重いな・・・、当たり前か・・・あれ？これって本物・・・
？異世界？)

また顎に手を当てて悩もうとするが

(とりあえず外に出てから悩もう)

ということ自分で納得して又ガチャガチャと音を鳴らしながら歩いて行く

歩き始めて10分経った頃

やはり音は無い

周りではやはりポチャーンポチャーンと水の音しかない

ホラーが怖いと思う人にとっては、地獄だろう

ちなみに、洞窟自体は真っ暗闇だがモンスター特有なのか暗視ゴーグルみたいに緑色に光って見える

そんな感じで歩いていると目視で50mほどの所に光が見え始める

(光が見えた!)

ガチャツガチャツと音を鳴らしながら走っていくと・・・

(あっ)

と思うと、目の前に緑の水のような何かげゼリーのようにポヨンポヨンと擬音が付きそうな感じに
ゆれていた、そんな感じにゼリーを見ていたら触手を槍のように尖らせ、突いてきた

(ここで俺の人生終わりなのか・・・) そう思っていると、

ガアンツ と鎧が槍を弾く 鎧にはまったく傷は付いていない様だ

鎧に触手が当たった時何か感触がしたので 鎧にも神経がはいつてるのかもしれない と考えていると

ガッアーン ガッアーン

やはり、触手で鎧を突く、だがそれも鎧で弾く、その動作を数回繰り返したゼリーは、諦めたように地面に吸い取られる様に消えていった

(やっぱりこれは鎧に助けられたのかな……)

考えても無駄なので、そのまま外に出ることにし 洞窟の外に歩いて行った

ガッチャン ガッチャン

「青空だあああああ！」

洞窟から出てきた時の第一声目はそんな言葉だった
すると、黒いバンダナを口につけた男が木の裏から出てきた

「兄ちゃん、有り金置いて行ったら見逃してやるぜ？」

(……あれー？これって盗賊なのかな？そういえば第一声が青空だーだったから

モンスターって気付いてないのかな……それでも黒い霧が鎧から出てるはずなんだけど……

まあいいや……この辺の街はどこにあるか聞いておこう)

「この辺に街はあるか？」

「在ると言えば在るな、無いと言えば無いな」

「どつちだ？」

「それはだな、冥府という名の街だよっ！」

盗賊は短剣を出し、やはり囷という風に残るから盗賊が出てくる

盗賊は短剣で背中を突くが ガツ という鈍い音が鳴り、黒騎士が振り返るとなおしてなかった

左手に持っていた盾が盗賊の頭にガツツと当たり「グハツ」と言いながら倒れる

「……街はどつちだ？」

「えーつと……ここから東に歩いて30分程の所に街道があるのでそこに行けば……」

盗賊の口調は丁寧語になっていた、逃げたとしても追いつかれる、攻撃は効かない という

考えになっており、諦めていた。

「わかった」

とその時、盗賊のリーダー？以外の子分が飛び出し首を狙い短剣で貫こうとしたが、「やめろ！」とリーダー

っぽい奴は言うが、勢い付いた物は止められる訳も無いので……

ガンツと鈍い音がなりガサガサツと

盗賊たちは逃げていた

ちなみに、貫かれそうになった当の本人は

「……」
（どろじょろ）「の空気……とりあえずあやま……いない……」

1時間経過

黒騎士は迷子になっていた、そんなもって森の奥深くにどんどん進んでいった

（……あれー？木々がどんどん狭くなっていつてるんだが……雑草も増えてきたし……）

ガチャン ガチャンと音を鳴らしながら歩いて行く

森の奥深くにもなるとモンスターが現れる、しかも凶暴だ。

鎧なんか着てガツチャンガツチャン音を鳴らしていたら格好の的。

今現在黒騎士は、囲まれている

（どろしてこうなった）

モンスターが集まってきた理由として三つ

血が出てその匂いを嗅いでやってきた

生き物の気配がするからやってきた

物音がするから獲物かと思いやつてきた

理由としては三つ目にあたる

ガツチャンガツチャンと音を鳴らしてたらモンスターが来るのも当たり前

集まってきたモンスターは、その森の中でも凶暴差ではトップ3を争うモンスターが居た

地獄死体だ ヘルゾンビ 地獄死体と呼ばれる理由として二つ

一つ目は燃えている

二つ目は生き物構わずにゾンビ化させる

こいつらの恐ろしさは生き物関係無しにゾンビ化させるからだ

リーダーの名前は地獄魂使い ヘルネクロマンサー

地獄の凶暴な魂を生き物に植え付ける凶悪なモンスターだ。

ちなみに一匹目がゾンビ化すると、そのゾンビがそこらの凶暴な魂を適当に植え付けるので

めんどくさいモンスターだ 一匹一匹の強さが大人の3倍程度 大人4人で対処できるが

数が多いのでその対処法は意味を持たない 一番良い対処法は魔法・弓

(人間じゃないから初戦闘にちょうどいいか・・・めちゃくちゃ怖いけど)

剣を取り出し臨戦態勢を取る

そうすると地獄死体（犬）がとびかかってくる
ガンツと鈍い音がなるが傷が少しつく

（痛っ）

「くっそおお！」

剣を両手持ちで、思いっきり振り下ろす、そうすると地獄死体（犬）
が一刀両断され

内臓や腸が飛び出てスプラッタな光景になったが、それでも死ぬぐ
らいなら、という風に剣を振り下ろし

残りの地獄死体を斬る、が地獄死体が「グオオオオオオオオオン」
と嘆き声を上げ……

グバツつと地面から音がなり手が出てきていた

そして足を捕まれる

（くそっ、こんなところで死んでたまるか！）と、剣で手の甲の方
を刺し貫く

だが、グバツ　グバツ　と地面から音を出しながら数十体の地獄死
体に囲まれる

もうその時点での黒騎士は無我夢中に剣を振るっていたので気付か
なかった

スキルに”^{バサッモード}凶戦士化”が追加されていたことに、それも戦闘中の極

度の興奮状態時のみでの発動だ
つまり、すでに発動していることになる

そうして黒騎士の戦いに入る

黒騎士は地獄死体に剣を振り上げ、叩つ斬りながら森の奥へ奥へと進んでいく

黒騎士が進んだ後には、一刀両断された地獄死体がもぞもぞと動きながら倒れていた

「　　ツアアアア！」　声にならない声をあげる

それでも剣を振り回しながら奥へ奥へと進んでいく
そこにはドラゴン墓地と呼ばれる墓場があった

そこに地獄魂使いがいる、だが、地獄魂使いはそこらにあるドラゴンの死体を使い

ドラゴンゾンビを数百匹という数で従えていた

戦力にすれば王国一つが奇襲されれば滅びるクラスの数だった

だが、一つおかしい点があった

地獄魂使いが従えられる死体の数は50程度

ドラゴンクラスの死体だったら20程度　なのにこの数はまずおかしかった……

だが黒騎士にとってこの程度の敵は鱗がゾンビ化による影響で脆く
なっており、ただの雑魚であった

ドラゴンゾンビは火を吐いてくるが、黒騎士はそれを盾で防ぎ、その盾で頭を思いっきり叩き割る

ドラゴンゾンビ改め竜死体は、黒騎士を引き裂こうとするが……

「　　ツアアアアアア！」という風に
黒騎士は咆哮を上げ、そのまま剣を両手持ちに変え、手を叩き斬った後、背中をダンッダンッとのぼり
首裏に剣を突き刺す・・・竜死体達は、爪で引き裂こうと　ガシユッ　ガシユツとするが
全て避けられやはり腹を斬られるか、腕を斬られて、首を叩き落とされるか、
ぐらいしか無かった

そのように竜死体達はすべて倒され黒騎士は墓標に持たれかかり死ぬ様に眠った

次の日

黒騎士は目覚めたが、ここはどこだ？という風に辺りを見渡すと

「なんじゃこりゃああっ!?!」

と声を上げ、スプラッタな光景に気絶しかけていた

「やべえ・・・吐きそう・・・吐けないけど」

内臓やら腸やらがそこから中に飛び出ており、首やら手やらが落ちて

いる

そんな光景は誰が見ても吐き気がする 自分がやったとは覚えてないが

「頭が痛いっ……」

と黒騎士は頭に手を当てる

「今思ったんだけど……街ってどっちだ？」

絶賛迷子中だった

ステータス

名前：空欄

種族：黒霧騎士
ブラックファントムナイト

LV：12

スキル：凶戦士化
バーサクモード

年齢：0歳

現在地：ドラゴン墓地

場所補正：城・古城・街

逆場所補正：山・森

食物によるステータス補正：極低

第二話 「ねからぶじじよじ」(後書き)

初めての戦闘シーンです

どうですかね？

感想待ってます！

第三話 今思ったんだけどモンスターの姿ってばれないの？(前書き)

3人称視点難しいでっ

とつくにこつちまで山火事が広がっていて高い所（木の上）が燃えていた

鎧は真っ黒に焦げて・・・もともとの色が黒なのであまり色は変わらなかった

（とりあえずどうしようか・・・）

東方向に首を曲げる、そうすると王城が見える

「でっかいな」

（騎士の姿のままでもバレるよね・・・モンスターだし・・・退治されそうだ・・・）

西方向に首を曲げ、その方向にある巨大な遺跡を見る

「とりあえずあそこでレベル上げようかな・・・冒険者っぽいのもいるから

会わないように・・・」

西方向に黒騎士はゆっくりと歩いて行く

その頃、王城では・・・

「王様！大変です！」

「なんじゃね？」

「黒霧騎士の目撃情報が多数出ています！」

「なんじゃと!?!」

「本当です！」

巨大な部屋 真ん中より少し奥に一人の白い髭にしわが多い老爺に、
40台前半の若い男性が一人居る

「ですが目撃情報だけじゃ、騎士達を動かさません!どうにかして
ください!王！」

と若い男性が言う

「じゃが・・・、目撃情報だけじゃのう・・・」

黒霧騎士 それは異世界からの使途 この国では黒霧騎士に国を半
壊させられた苦い歴史がある

だが、300年前もの大昔の為、国で覚えてる人間は遺跡発掘者ぐ
らいしかいない

普通の黒霧騎士は、ただ鎧から黒い霧のようなものを出しているだ
けだが異世界からの使途は

黒く赤に近い霧を鎧から放っている 違いと言えばそれだけ?と思
うかも知れないが、最初は弱い

だがゴブリン族から人間が生まれたようにゴブリンと同じ進化能力
を持っている つまりだ、50通り近く

の進化派生がある それがどういう事かわかるかな? 進化の派生、
それは無限近くに存在する

50通りから進化を選べば次は40通りが出てくる そのまま進化
すると限界が来る

だが、目を退化させれば又それも一種の進化ということになる
それから又進化の派生が出来、無限の可能性を持つ生き物の出来上
がりという訳だ
ゴブリンと違い 初期能力が全然違うため進化速度も数十倍に近い
とされている
ちなみに大昔国を半壊させた黒霧騎士は、魔界に封印され今も眠っ
ているとされている

「西の方角に向かったという情報がありますけど・・・」

「なんじゃと!?!」

驚きの声が応接間に響く・・・

「あそこには、冒険者を向かわせておるんじゃぞ!?!」

「なんだって・・・?」

西の遺跡に向かって3日目

「遺跡遠いな・・・・・・はあ・・・」

3日も森しかない道を歩いている為、溜め息が出る

「そろそろここで野宿するか・・・、イノシシっぽいのが狩って来たし」

イノシシに似た生き物を火から30cmぐらいはなれたところで焼く・・・

5分経過

「よし食うか・・・うまい・・・」

ガツツ ガツツ

噛み音が鳴る 鎧なのにどこに入っているのだろうか・・・

「やっぱり生は無理だ、焼かないとな」

イノシシをどう狩ったかって？突進してきたから剣を前に出しただけです・・・

ガツツガツツガツツ

「でも盗賊以外の人間に一回も会ってないからな・・・」

ガツツガツツガツツ

「・・・遺跡でレベル上げしたら、この地域じゃなく、別の地域行こうかな・・・」

ガツツガツツガツツ

「あー、食った食った」

「完全に閉じ込められた……」

その洞穴は現在 落とし穴だ

3時間ほど経過

洞穴は草で入り口を覆われ、落とし穴になっていた
そこを誰かが通ったら落ちることは間違いないだろう

「暇だな……」

3時間も何もやる事が無いのは暇としか言いようが無い

「むう……ん？」

草の上を誰かが通る

「キャ……キャアアアア」

それを黒騎士は腕で受け止める

(やっべー やっべー、高校生の体だったら骨折れてるな……)

受け止めた人は、金髪ショートの青眼の少女だった

「……………」

「あ、ありがとうございます!」

「お、おう」

「ここはどこですか?」

「洞穴の中だ、ゴブリン集落の」

「ふえっ……ふええええええ!」

洞穴に甲高い声が響き どこかが崩れた音がする

「落ち着いたか?」

「はいっ落ち着きました!」

「名前は?」

「シャーナですっ」 胸を張って言う

「そうかそうか」 と 頭を撫でる

「そついえばここって洞穴なんですよね？」

「そつだが」

「何で騎士さんはこんなところに居るんですか？」

「野宿してたら捕まっ たんだよ！」

「あっそつだったんですか……何で森で何の用意もせず野宿するんですか？」

「えっ……」

会話は余り続かない

「ここからどうやって脱出しようか……とりあえず俺が……」

ザアアアアアアアアアアアア

突然雨が降ってくる　そして　洞穴に水がたまりだす

「ちよっこれやばい！はやく肩に上がれ！」

「はっはい！」

（やばい、これどうしよう体浮かばないし、詰んだか？これ）

シャーナは洞穴の外に出せたが　黒騎士の鎧があるせいで　上れない……

そう思い　おぼれかけていると

”ウォーターフロントムナイト水霧騎士”に進化しますか？　”YES　NO”　と出た

「ガボツガボボ（なんだ……？これは）」

頭の中でYESを選ぶ、すると……

鎧の形が変わって行った

腕にヒレのような刃　背中にモーターボートのエンジンの小型っぽい何か　イカのような兜になった
ちなみに胸はまったく変わってなかった

「ガボボツガボツ」（エンジン……だ……と？）

そのまま洞穴から脱出した

「やばいな、鎧に水が……」

ジャーと流す

(とりあえず喜びに……)

目の前に少女が現れる……

ステータス

名前：空欄

種族：水霧騎士
ウォーターファントムナイト

LV：13

スキル：凶戦士化
バーサクモード 進化

年齢：0歳

現在地：ゴブリン集落周辺

場所補正：城・古城・街

逆場所補正：山・森

食物によるステータス補正：普通

第三話 今思ったんだけどモンスターの姿ってばれないの？（後書き）

どうしようかね……………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4967ba/>

黒騎士の行く道 Dark Knight Go Road

2012年1月14日10時48分発行